

財 文化 無形
補 遺産 世界

「那智の田楽」を選定

文化庁 ユネスコに提案へ

文化庁は20日、那智勝浦町に約600年前から伝わるという「那智の田楽」(国指定重要無形民俗文化財)を、「無形文化財の世界遺産」候補に選定したと発表した。

県からは初の選出。8月末までにユネスコへ提案し、来年9月の政府間委員会で決定する。

「那智の田楽」は熊野那智大社で営まれる「那智の火祭り」で7月13、14日に奉納する。応永年間(1394～1428年)に京都から伝わったとされる。11人編成。笛の音に合わせて、木片を連ねた打楽器「ピンザサラ」と締太鼓を鳴らしながら、8人の踊り手がさまざまな陣形で踊る。

県文化遺産課によると、田楽は能や歌舞伎より古い「民間芸能の原型」。全国的に簡略化が進む中、「那智の田楽」は動作が多彩かつ優雅で、芸能を保存会(朝日芳英会長)が忠実に受け継いでいる点

が、ユネスコ無形文化遺産の提案候補に選定された「那智の田楽」(県教委提供)

ユネスコ無形文化遺産の提案候補に選定された「那智の田楽」(県教委提供)

同課は「火祭りは有名だが、田楽は意外と知られていない。

登録候補選定が、魅力を伝えるきっかけになれば」と期待している。

国内提案候補選定は今回が2回目。「那智の田楽」以外では「男鹿のナマハゲ」(秋田県)など12件がある。第1回では祇園祭(京都府)など14件を選んだ。第1回の代表一覧表への記載決定は、今年9月にある。

